

早期水稲情報 第1号

J A む な か た
北筑前普及センター

本年は、早いところで4月18日頃から田植えが始まり、ピークは4月23～24日頃でした。

4月下旬から5月上旬は、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少なく推移しました。苗質は良好で、苗の活着はおおむね順調です。

今後の管理は、下記の事項に注意して行いましょう。

1. 水管理・中干し

極端なかん水不足や深水にならないよう注意して浅水管理を行い、分げつの発生を促しましょう。分げつが旺盛になってきたら間断かん水を行ってください。

また、野菜跡や草をすき込んだほ場では、早めの間断かん水（小ヒビ入れ）を行って、ガス抜きを促しましょう。

● 溝切り

中干しをする前には、できるだけ溝切りをしましょう。

(溝切りをしておく、水が通りやすくなるため、水管理が容易になります。)

★溝切りの効果

1. 天候の変化にすぐに対応できる給排水（中干しと間断かん水）
2. 登熟期ではほ場の乾きすぎを防止（走り水を通すため）

● 中干し開始時期

分げつの発生を見ながら、

コシヒカリでは目標茎数の7割（坪60株植えて1株15本程度）

夢つくしでは8割（坪60株植えて1株17本程度）を確保したら中干しに入りましょう。

★中干しの効果

1. 土壌中へ酸素を供給し、根の生育を旺盛にする。
2. 無効分げつの抑制と倒伏防止(窒素の過剰吸収を抑える)
3. 土壌が固化するため、収穫前まで適切な水管理が行える。

※中干しの開始時期は、下表を参考に、ほ場で分げつ数を確認して判断してください。

田植時期	中干し開始時期
4月25日	6月2日前後頃
5月5日	6月10日前後頃

《中干し前後の水管理》

- 中干しは、田面に1～2cmの亀裂が入るくらいに行いますが、白乾状態が長く続く場合は、生理機能低下や断根などで稲が傷むので、走り水を行いましょう。
- 中干しの終了時期は、幼穂が出来はじめるころです。《出穂の1か月前》
※平年の生育では6月中旬（6/15～20）が終了時期の目安です。
- 根腐れを防ぐために、中干し終了時は、水を溜めっぱなしにせず、間断かん水を行いましょう。

2. 後期除草剤の使用

水不足等により、初期除草剤が使用できなかった場合など、雑草の発生が見られる場合は、移植後日数や収穫前日数に注意し、中期除草剤を使用しましょう。

◎中期除草剤

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用量 (10a 当り)	
ノビエ	クリンチャー 1キロ粒剤	移植後 25 日～ノビエ 5.0 葉まで (但し収穫 30 日前まで)	1.5kg	湛 水
	クリンチャー ジャンボ	移植後 25 日～ノビエ 4 葉まで (但し収穫 40 日前まで)	30 パック	
	クリンチャーEW	移植後 20 日～ノビエ 6.0 葉まで (但し収穫 30 日前まで)	薬量 100ml 水量 100ℓ ※展着剤加用	落 水
広 葉 かツグサ	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	移植後 15～55 日 (但し収穫 50 日前まで)	薬量 700ml 水量 100ℓ	落 水
ノビエ 広 葉 かツグサ	クリンチャーバス ME液剤	移植後 15 日～ノビエ 5.0 葉まで (但し収穫 50 日前まで)	薬量 1000ml 水量 100ℓ	
	ワイドアタックSC	移植後 20 日(イネ 5 葉期以降)～ ノビエ 5.0 葉まで(但し収穫 30 日前まで)	薬量 100ml 水量 100ℓ	
	ハイカット 1 キロ粒 剤	移植後 15 日～ノビエ 3.5 葉期 (但し収穫 60 日前まで)	1 kg	湛 水

●落水処理は、散布の 1～2 日前に落水し、薬剤が雑草によくかかるように散布し、散布後 3 日間は水を入れない。

3. 病虫害防除

今後、梅雨に入ると、葉いもちの発生が心配されます。発生の動向に注意して、補正防除を行ってください。また、葉いもちの発生原因となる置き苗は直ちに除去しましょう。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間（1 週間程度）を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を 3 回通水し、洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳